

1

テーブルメニューの使い方

プレーヤーミントを開いてから閉じるまで

プレーヤーミントを開く



デスクトップまたは、スタートメニューにあるプレーヤーミントのアイコンで開く。

* アイコンが見つからないときは「playmx.exe」ファイルを検索して開く。

利用者を登録



はじめて開いた時には、利用者登録窓が開くので、利用者の名前を入力して [OK] ボタンを押す。

朗読の鑑賞やトレーニングをはじめる



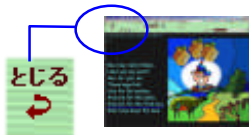
もくじ画面

各節の再生ボタンをクリックする。

* イラストは作品によって多少異なる

再生ボタン

朗読の鑑賞やトレーニングを終了する



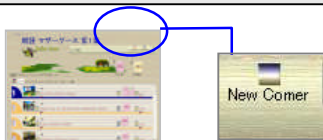
鑑賞の再生が終わったり、トレーニングをやめ、最初のもくじ画面にもどるには、再生窓の「とじる」ボタンをクリックする。

アプリケーションソフトを終了する



ソフトを終了する時は、もくじ画面で「close」ボタンをクリックする。

利用者を追加登録する

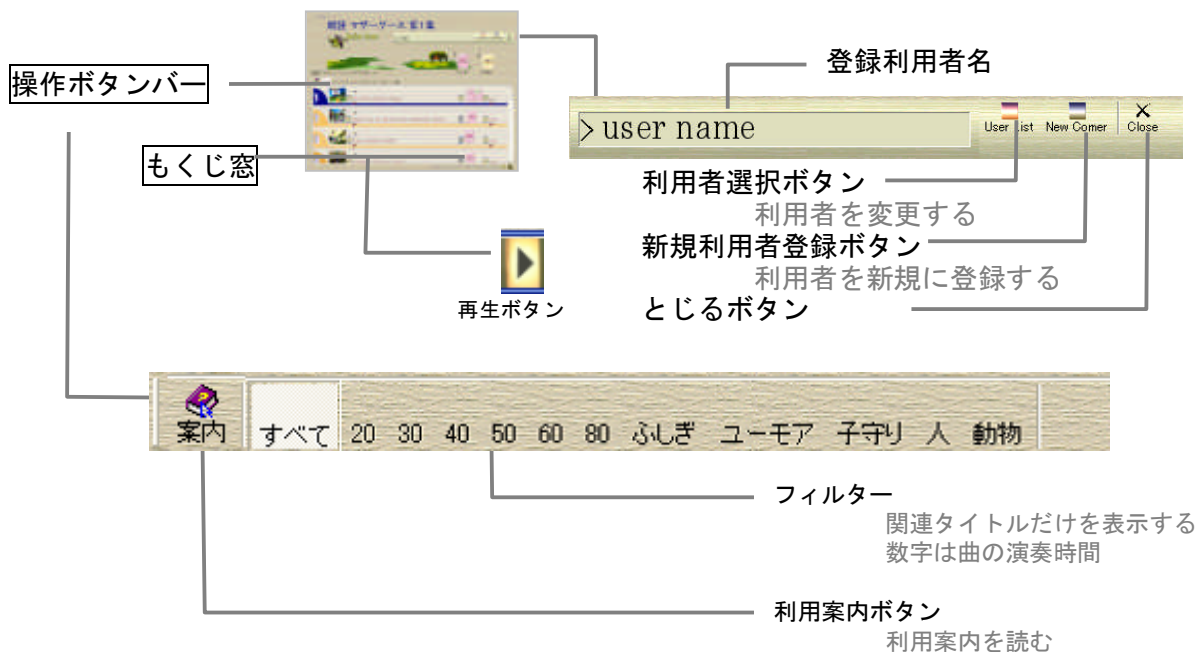


利用者を追加登録するには [新規利用者登録ボタン] をクリックする。

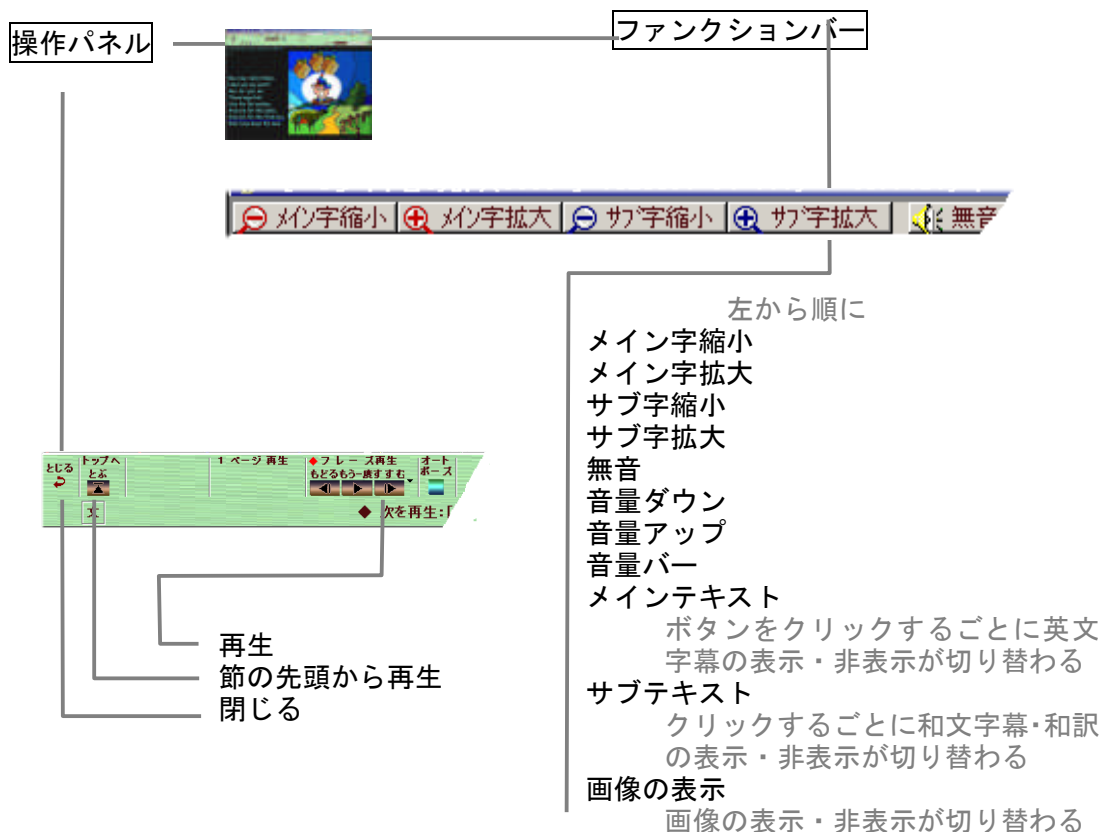
各部のなまえと機能

* イラストは作品によって多少異なる

もくじ



再生

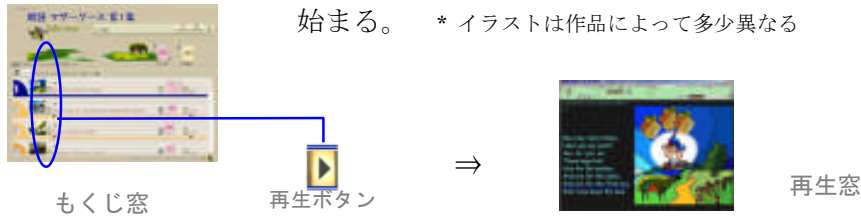


2

鑑賞する

作品の鑑賞をはじめる

もくじ窓で再生ボタンをクリックすると、再生窓が開いて再生が始まる。 * イラストは作品によって多少異なる



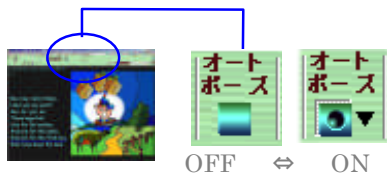
作品の鑑賞を終了する



再生窓の閉じるボタンをクリックする。

今のフレーズ プレーバック

句切りごとに鑑賞／オートポーズ



句切りごとに自動停止するには、オートポーズボタンをONにする。オートポーズボタンをもう一度クリックすると解除される。

句切りごとに再生／フレーズ再生



句切りごとに再生位置を移動するには、フレーズ再生ボタン「もどる」「もう一度」「すすむ」ボタンをクリックする。

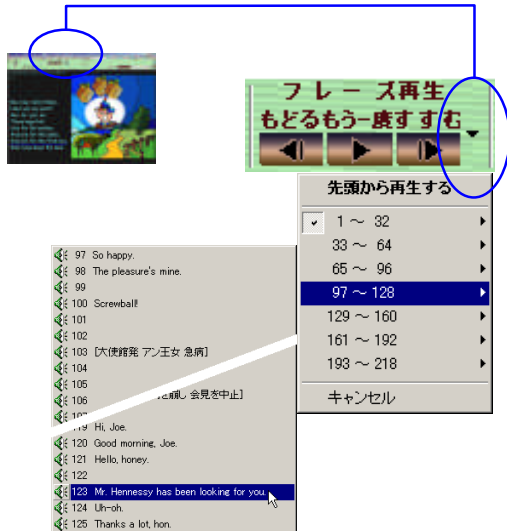
キーボードの押下でも再生位置を移動できる。

もどる	[B] か [-] キー
もう一度	[H] か [Enter]
すすむ	[N] か [+] キー

聞きたい表現を鑑賞／一発 頭だし

聞きたい表現を指定して再生／ピンポイント再生

たとえば 鑑賞しているタイトルの中でもう一度聞きたい部分があるときには、文の一覧表から探して、ピンポイントで再生できる。

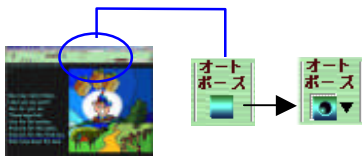


項目一覧ボタンをクリックする

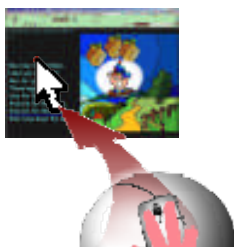
ポップアップするメニューから目的の表現を探してクリックする

このときオートポーズを ON にしておく（前頁参照）と、そのフレーズだけを再生できる。

ピンポイントした部分だけを再生するには オートポーズを ON にする。



モニターの文字をダブルクリックしても、そのフレーズを再生する。



3

アクティビティ

トレーニングモードでアクティビティをはじめる

もくじ窓で再生ボタンをクリックすると、再生窓が開いて演習が始まる。 * イラストは作品によって多少異なる



トレーニングを終了する



再生窓の閉じるボタンをクリックするか、

演習窓のもどるボタンをクリックする。

アクティビティ 1 かるた取り

カルタ取りゲームは、ほとんどすべての児童が無理なく参加できるのが特徴で、うまく使うことで、大きな教育効果が期待できる。

アクティビティ 2 唱和練習

唱和練習は、ワンフレーズずつ反復しながら、リズムに乗って真似してしゃべる訓練で、クラスの声がひとつにまとまるようになることが成功の目安。

通例、ワンフレーズを3回ほど繰り返して次に進むことが多い。

実践例

提示、かるた取り、唱和練習

英語のリズムとイントネーションを身につけるのが目的。

- (1) カルタゲームに入る前に作品の提示をすませておく
鑑賞を最低1回、復唱を最低2回はしておきたい
- (2) クラスを6～8のグループに分ける
10人以下なら、一人ずつのがよい
グループには必ずまとめ役（キャップ＝解答者）を決めておく
- (3) カルタ取りを始めて、順番に答えてもらう
1問解答するたびに次のグループに解答権を移す
- (4) 児童の解答状況を見極めて、授業展開を工夫する
正答率が低いとき
提示と唱和練習が足りないので
唱和練習を増やす
ただし、同じことを繰り返すと飽きるので、次の曲目に進む中で、
復習をちゃんと行うようにするのもよい

留意点

最初は、短い曲目からはじめるとよい

- ・ 曲目の秒数を目安に選べる



カルタ取りを使って一致度を見て、児童の集中度や特性を知る

- ・ 音に敏感な子、絵が得意な子、字が好きな子など特性があることを知る
- ・ さまざまな特性の子がいるクラスでも、みんなで声が合うように運営する
- ・ コツは、音と絵と文字を同時に提示しながらも、強要しないこと
- ・ 児童は、自分が必要な情報に目や耳を向けるし、必要なくなれば見なくなる

文字を上手に扱う

- ・ 高学年になると文字への関心が急激に増すので、文字を提示しておいた方が安心する子が多くなる
- ・ 提示しておくだけでどんどん文字を覚えてしまう小学1年生子もいるし、反対に文字がうまく扱えない高学年もいるので、強要はしない
- ・ 英語のリズムとイントネーションを身につける目的を優先する